

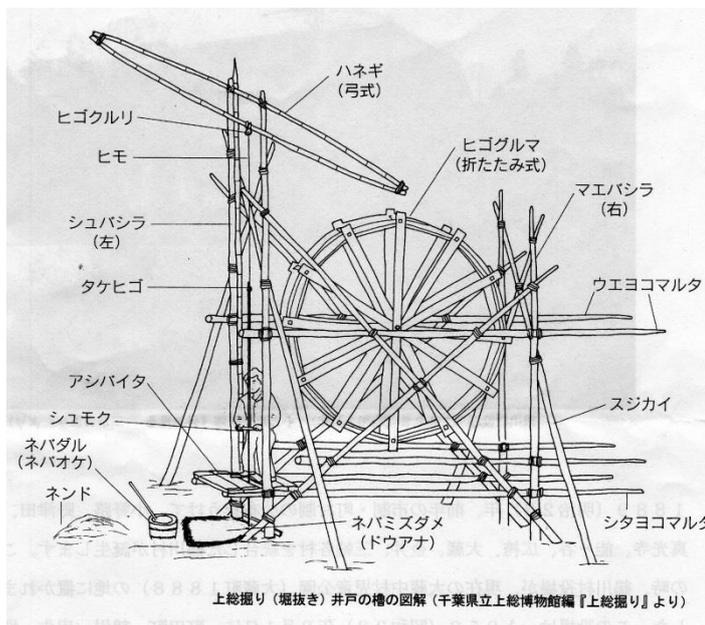
【雑学】水を巡る・フィールドワーク（井の花～能ヶ谷四丁目）

町田市立自由民権資料館の平成27年第2回特別展「水をめぐる生活誌」では市内を流れる鶴見川・境川・恩田川などの河川や池・沢、堰や水路・井戸などの灌漑を通して、市域に生活した人びとの生活を「水」とのかかわり方から垣間見、展示している。

「水を巡る」フィールドワークは、江戸時代より井戸掘りを業とする能ヶ谷の神蔵さんが同行し、氏が鶴川地区の多くの井戸を「上総掘り」で施行し、その現存せる井戸を見学することが主旨である。手始めに上総掘りとはどんな手法なの？ということで調べてみることにした。その説明によると

右図のごとく、高さ数メートルのやぐらを建て、地下深く掘り進んだ竹ひごを直径二メートルの車で巻き取って回収する。竹ひごの上下動は「ハネギ」と呼ぶ竹の部材の弾力で勢いを与える。人力だけで数百メートルを掘る技術は明治期に千葉・上総地方で確立し、当地の用具は国の重要有形民俗文化財に指定されている。

11月8日、雨模様であったが、自由資料館前に集合、まずは井の花に向う。井の花は小野路川の流域に沿っている地域である。神蔵さんの説明によると、水の層は浅い所から何重もの層があり、ここでは約150m掘ったところから出る水が自噴する良質な水なそうだ。道路の向い側の土蔵がある中溝さんの前庭にも、滾々と湧き出ている井戸がある。蛇口より直接出る水は飲料水として利用し、二段目は、収穫した野菜類の洗浄に利用しているようだ。



上総掘り（堀抜き）井戸の構の図解（千葉県立上総博物館編『上総掘り』より）



中溝家は以前、醤油醸造業を営む素封家であったそうだ。この敷地の中に醸造場があって、この良質な自噴水を使っていたのであろう。また小野路川流域は平坦地が少なく、水が十分に使えないことが予想されるので、水田の代りに、畑地での麦か大豆が豊富であったのであろうかなどと頭に浮かぶのだった。

中溝さんの前庭にある井戸と三段構えの水槽を紹介する。

右のポンプ小屋は邸内への給水用であろうか。

自噴水

貯水槽

野菜等洗い場



中溝家の自噴井戸



小野路川の水神様



小野路川の堰



小野路川の用水利用の為の堰が作られ、その完成記念の石碑と水神様が祭られている。堰を作った時代は、重機が少なかったのであろうか、流れをL字に変えて、受け柱を建て、コンクリートの板を何前か重ねて、堰の水深を確保する方法でつくっている。これで下流のほうには揚水がなされ、水田が出来るようになったと思われる。

ここに別れを告げて、小野路川が芝溝街



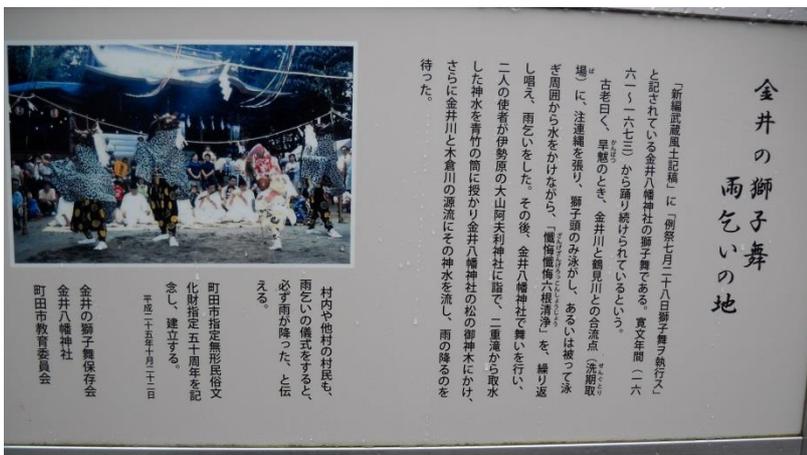
水神様より下流の小野路川

道の下を流れて、その先鶴見川に合流する地点を遠くから確認する。大蔵〈鶴川局前〉のバス停より旧鶴川街道に入る。JA 町田市鶴川支店の前を通り、大蔵中村児童公園に立ち寄る。この場所に旧鶴川村の役場があったそうで、神蔵さんが掘った井戸の名残がある。そこを過ぎた〇〇宅の前庭にある井戸も上総掘りて掘った井戸のようだ。

水流は僅かのように自噴しているようである。休憩予定地の鶴川市民センターはもうすぐ近い。ここより大蔵小横を通り鶴見川に向う。住吉橋、弁天橋、八坂橋を横目に見ながら、鶴見川沿いに歩く。下川戸橋を越えた先に金井川の合流地点がある。



〇〇宅の井戸 〈災害協力井戸〉



この合流地点の鶴見川の中州で、雨乞いのために金井の獅子舞が舞われた謂れの石碑が建てられている。今では獅子舞は、ここで舞われることはなく、金井八幡神社の境内で舞が奉納される町田の郷土芸能となっている。

小田急線を越えたところから、県境が複雑に入り組んでいる場所がある。鶴見川の河川改修で川が直線化されて、旧河川の通りにそのまま県境が出来ている場所である。河井田橋と大正橋の間がその場所になる。線路の左側にあるマンション・鶴川ハイツや岡上ケヤキ公園が川崎市麻生区に属している。鶴見川の右岸にも自噴する井戸〈川崎市の災害協力井戸〉がある。



大正橋右岸にあるアパート前の自噴井戸



鶴見川の大正橋を渡って、鶴川駅を目指す。ふむふむ、鶴見川の北側が町田で、南は川崎なのだ！と思っていたら、北にも川崎があるぞ？頭がこんがらがって来たが、県境は鶴見川の旧河川どおりで変更無し、今の川が境ではないのであった。その旧河川は河原公園として整備されている。和光大学ポプリホール鶴川、鶴川駅、駅前広場を過ぎ、岡上の跨線橋に至る。世田谷街道を渡って、今度は真光寺川に沿って進む。



能ヶ谷いこい会館〈町内会〉と脇にある自噴井戸

いこい会館横の井戸は、神蔵さんが上総掘りで掘った井戸のそうだが、水は湧き出しているものの、流し台の排水溝から湧き出しているようで、違和感のある井戸であった。

最後は、能ヶ谷神社下の神蔵宅内の自噴する井戸水を利用したお庭と設備を見学して解散となった。水を巡るといっただけあって小野路川、鶴見川、真光寺川と川つなぎで、井戸を巡るフィールドワークであった。最後にその散策路をイメージしていただく為に歩んだ地図を添付する。赤線で示したのが歩いた路線で、緑色は川を示している。



水を巡るフィールドワークのせいか、一日中雨のウォーキングであった。

記：小林尚道